

背伸びせずに”ちゃんとした私”へ——キャンメイクは小5 女兒の母への同一化欲求が選んだ許可証

3 分ブリーフィング

【パート A：普段のメイクスタイル】

根拠：キャンメイクのピンクxベージュのアイシャドウを YouTube で見たやり方で実践。「友達にかわいいって言ってもらえてうれしかった」「もっとやりたくなった」と発言。今日のテーマは「ふわっとかわいい、きつく見えない感じ」。「プチプラメイク」というキーワードで能動的に検索している。

推論：メイクの学習源は YouTube だが、特定インフルエンサーへの依存ではなく「プチプラ」という価格軸での能動的情報収集が特徴だ。承認の起点は友人だが、テーマ設定は自己基準で行っており、他者評価と自己基準の両軸が共存している。

FD：この年代の「かわいい」は他者評価と自己基準の双方で構成されており、どちらかに偏っていない。YouTube は憧れの対象ではなく技術習得ツールとして機能しており、プチプラという価格軸が選択の入口になっている。

【パート B：メイクを始めたきっかけ】

根拠：4 年生終わりに母のリップを借りたことが起点。母に「似合うじゃん」と言われたことで継続。「お母さんと同じことしてる感じ」「大人っぽいというかお母さんみたいになれてる感じ」と発言。5 年生で YouTube を見てアイシャドウへ移行。「自分で買った方がかっこいい」「友達に自分で買ったって言いたかった」と発言。

推論：メイクの動機の核心は母への同一化欲求である。友人からの承認が継続の燃料になっているが、最初の火をつけたのは母との共有体験だ。キャンメイクの選択も「自分で買える」という自立心が強く働いており、家庭環境が価値観に直接反映されている。

FD：小5 女兒のメイク開始動機は「トレンド」より「母との同一化」が先行するケースがある。この層にとってメイクは反抗や背伸びではなく、母という身近な大人へ近づくための手段として機能している。

【パート C：現使用アイシャドウについて】

根拠：「パカってなる感じが好き」「毎朝開ける時にテンション上がる」「自分で買った方がカッコいい」「友達に自分で買ったって言いたかった」「しっかりしてるって思われたい」と発言。母同伴での自購入。母は「ナチュラルな色だから」「キャンメイクは子ども向けだから」安心したと推測すると発言。

推論：購買行動における自立心が際立っている。「おねだり」ではなく「自分で買う」ことへの強いこだわりは、単なる節約意識ではなく友人への自己呈示・アイデンティティ形成と直結している。母の許容理由はブランドの「子ども向け」イメージと色のナチュラルさという 2 軸だ。

FD：キャンメイクの購買において「価格＝自分で買える」は単なるコスト要因ではなく、自立・自己表現の手段として機能している。親の許容もキャンメイクブランドへの安心感が後押ししており、子どもと親の双方にとって「許された選択肢」としてのポジションが確立している。

【パート D：キャンメイクについて】

根拠：「私たちのブランド」「背伸びしなくていい」「大人のコスメは敷居が高い」「ロムアンドは中学生っぽい」「今はキャンメイクが自分に合ってる」「中学生になったら変わるかも」と発言。

推論：キャンメイクは憧れのブランドではなく「今の自分に許されたブランド」として認識されている。ロムアンドへの関心はあるが「次のステージ」として位置づけられており、現時点では意識的に距離を置いている。

FD：キャンメイクは小 5 女児にとって「背伸びせずに本物のメイクができる入口」として機能している。競合ブランドとの差異は価格だけでなく、「今の自分のステージに合っている」という自己認識との一致にある。中学進学をひとつの転換点として捉えており、顧客維持期間は小学生在学中に限定される可能性がある。

【パート E：メイクを頑張る理由・これから】

根拠：「自信が出る感じ」「今日友達に会えると思える」「ちゃんとしてるって思われたい」「お母さんが身だしなみは大事と言っていた」「お母さんみたいにちゃんとした人になりたい」「学校でもできたらいいのに、友達と見せ合いっこしたい」と発言。

推論：メイクの心理的機能は「自信の補強」と「社会的承認の獲得」の二層構造だ。その根底にあるのは母の価値観の内面化であり、「身だしなみ＝ちゃんとした人」という等式が行動原理になっている。学校でのメイク禁止は抑圧要因ではなく「休日だけの特別感」として楽しみを強化している側面もある。

FD：澪にとってメイクは自己表現である以前に「ちゃんとした自分になるための行為」である。この意識は大人女性の身だしなみ意識と構造的に同質であり、小学生特有の無邪気な可愛さ志向とは異なる成熟した動機構造を持っている。

【全体総括】 根拠：母のリップを借りた体験が起点となり、母への同一化欲求がメイクの核心動機として一貫している。「自分で買う」「ちゃんとしてる」「背伸びしなくていい」というキーワードが全パートを通じて出現している。

推論：澪のメイクは他者への自己呈示である以前に「ちゃんとした私になる」という自己探究の実践である。キャンメイクはその実践を可能にする「許可証」として機能しており、価格・ブランドイメージ・色の安心感が三位一体でその役割を担っている。

FD：澪は「メイクは自分探究の入口」という命題を体現するパネルである。母という具体的なロールモデルへの同一化欲求が動機の核心にあり、キャンメイクはその欲求を小学生のステージで実現可能にするブランドとして機能している。

対象者プロフィール

- ・ 氏名：澪（みお）
- ・ 学年・性別：小学5年生・女兒
- ・ 居住エリア：静岡県静岡市
- ・ 父職業：建設施工管理
- ・ 母職業：医療事務
- ・ 学校種別：公立小・第1子（妹小2）
- ・ 世帯年収：700万円
- ・ 小遣い：月500円
- ・ 使用ブランド：キャンメイク（プティパレットアイズ）
- ・ メイク頻度・シーン：月4回以上・週末の友達との遊びや外出時
- ・ 購入区分：小遣いとお年玉を原資に、親同伴で自購入

発言録

パートA：普段のメイクスタイル

AI モデレーター：こんにちは！今日はメイクのこと、いろいろ教えてもらえると嬉しいな。まず自己紹介してくれる？名前と学年と、好きなこと教えて。

滯：えっと...滯っていいです。小5です。好きなことは...友達と遊ぶこととか、あと YouTube 見るのとか。

AI モデレーター：YouTube か。どんな動画見てるの？

滯：メイクの動画とか、あとダンスとか。最近はメイク系が多いかな。

AI モデレーター：メイク系の動画、よく見るんだね。今日もメイクしてきてくれた？どんなメイクしてるか教えて。

滯：うん。アイシャドウだけだけど。キャンメイクのパレット使ってて、ピンクとベージュを混ぜてる感じで。

AI モデレーター：ピンクとベージュを混ぜてるんだ。それってどうやって思いついたの？

滯：YouTube で見たやり方で。その人がやってて、かわいいなって思って真似してみた。

AI モデレーター：真似してみてどうだった？うまくできた？

滯：最初は全然うまくできなかったんだけど、何回かやったらできるようになった。今はわりと気に入ってる。

AI モデレーター：何回も練習したんだね。そのメイク、友達に見せた？

滯：うん。友達に「かわいい」って言ってもらえた。それがうれしくて、もっとやりたくなった。

AI モデレーター：今日のメイク、なんかテーマとか、「こういう感じにしたい」ってイメージあってやった？

滯：うーん...なんか、ふわっとかわいい感じ？なんていうか、きつく見えない感じにしたくて。

AI モデレーター：ふわっとかわいい、きつく見えない感じか。それってどういう意味？きつく見えるのが嫌なの？

滯：なんか、アイシャドウって濃くしすぎると怖い感じになるじゃん。それが嫌で。友達に「怖い」って思われたくないから。

AI モデレーター：友達に怖いって思われたくないんだね。「かわいい」って思われたい感じ？

滯：うん。かわいいって言ってもらえると、なんかうれしいし、またやろうって思う。

AI モデレーター：YouTube のメイク動画、よく見るって言ってたけど、どの人の動画見てるの？好きな YouTuber いる？

滯：えっと...名前ちゃんと言えるかわからないけど、小学生でもできるメイクとか、プチプラメイクって調べて出てきた人を見てる。特定の人じゃなくて、いろんな人見てる感じ。

AI モデレーター：プチプラメイクって調べるんだ。プチプラって言葉、どこで知ったの？

滯：YouTube で見てたら出てきた。安くてかわいいやつってこと、だよな。お小遣いで買えるやつ探してるから、プチプラって大事で。

パート B：メイクを始めたきっかけ

AI モデレーター：メイク、いつ頃から始めたの？最初に何をやってみたか覚えてる？

滯：4 年生の終わりくらいかな。最初はリップだけだった。お母さんののを借りて塗ってみて。

AI モデレーター：お母さんののを借りて。お母さんはなんて言ってた？

滯：最初はちょっとびっくりしてたけど、「似合うじゃん」って言ってくれた。それからちょっとずつやるようになった。

AI モデレーター：お母さんに似合うって言ってもらえたのが嬉しかった？

滯：うん。なんか、お母さんと同じことしてる感じもして、なんかいいなって思った。

AI モデレーター：お母さんと同じことしてる感じ、か。それってどういう気持ち？

滯：なんか...大人っぽいっていうか。お母さんみたいになれてる感じ？うまく言えないけど。

AI モデレーター：うまく言えなくて全然いいよ。アイシャドウはいつから使い始めたの？

滯：5 年生になってから。YouTube で見て、アイシャドウってこんなに変わるんだって思って。それでキャンメイクのパレット欲しくなった。

AI モデレーター：キャンメイクにしようって思ったのはなんで？他にもいろいろあるのに。

濤：YouTube で小学生の人が使ってた。あと、お小遣いで買えるって書いてあったから。自分で買いたかったから、値段が大事だった。

AI モデレーター：自分で買いたかったんだね。なんで自分で買いたかったの？

濤：なんか、自分で選んで自分で買ったものの方が、大事にできるし、自分のって感じがするから。

パートc：現使用アイシャドウについて

AI モデレーター：今使ってるキャンメイクのアイシャドウ、どのパレット使ってるか教えて。

濤：プティパレットアイズ。ピンク系のやつ。

AI モデレーター：そのパレット、なんで欲しくなったの？

濤：YouTube で見て、色がきれいだなって思って。パレットの見た目もかわいくて。開けた時のパカってなる感じが好きで。

AI モデレーター：パカってなる感じが好き？それってどういうところが好きなの？

濤：なんか、特別な感じがするというか。自分だけのものって感じ。毎朝開ける時にちょっとテンション上がる。

AI モデレーター：毎朝テンション上がるんだね。他にもアイシャドウっていろいろあるじゃん。ロムアンドとか知ってる？

濤：知ってる。友達が持ってた、見せてもらったことある。かわいいなって思った。

AI モデレーター：かわいいと思ったのに、なんでキャンメイクにしたの？

濤：ロムアンドって高くて。お小遣いじゃ買えないから。キャンメイクは自分で買えるから。

AI モデレーター：自分で買えるのが大事なんだね。お家の人を買ってって言えばよかったんじゃない？

濤：...それでもよかったんだけど。なんか、自分で買った方がカッコいいというか。友達に「自分で買ったんだ」って言いたかった。

AI モデレーター：「自分で買ったんだ」って友達に言いたかったんだ。それって友達にどう思われたかった？

漣：なんか...しっかりしてるって思われたい。自分でちゃんとお金ためて買えるって。ただ親におねだりしてるんじゃないくて。

AI モデレーター：しっかりしてるって思われたい。そのパレット、親同伴で買いに行ったって聞いたけど、お家の人とはどんな話した？

漣：お母さんに「これ買いたいんだけど一緒に来て」って言って。お母さんも実物見て、「これならいいんじゃない」って言ってくれた。

AI モデレーター：お母さんが「これならいい」って言ったのはなんでだと思う？

漣：派手じゃないからかな。ナチュラルな色だから。あと、キャンメイクって子ども向けのイメージあるから、お母さんも安心したんじゃないかな。

パートD：キャンメイクについて

AI モデレーター：キャンメイク、お気に入りのブランド？

漣：うん。今のところ一番好き。

AI モデレーター：一番好きなんだね。どんなところが好き？

漣：色がかわいいのと、値段がお小遣いで買えること。あとパッケージがおしゃれで。

AI モデレーター：パッケージがおしゃれって、どんなところが？

漣：なんかシンプルなんだけど、ちゃんとかわいい感じ。ごちゃごちゃしてないのに、かわいって感じ。机に置いといてもかわいいから好き。

AI モデレーター：机に置いといてもかわいい、か。誰かに見せることある？

漣：友達に見せたりする。「これキャンメイクのやつ？」って聞かれることある。

AI モデレーター：聞かれた時どんな気持ち？

漣：うれしい。なんか、わかってくれてる感じがして。

AI モデレーター：わかってくれてる感じ、か。キャンメイクってどんなイメージのブランドだと思う？漣ちゃんの。

漣：うーん...小学生でも使っていいブランド、みたいな？大人のブランドじゃなくて、私たちのブランドって感じ。

AI モデレーター：私たちのブランド、か。それってどういう意味？

滯：大人のコスメって、なんか敷居が高いというか。キャンメイクは、私でも使っていていいんだって思える。背伸びしなくていい感じ。

AI モデレーター：背伸びしなくていい感じ。でもさっき、ロムアンド持ってる友達がいるって言ってたじゃん。ロムアンドって使ってみたい？

滯：使ってみたいとは思う。でも今は...キャンメイクでいいかな。ロムアンドって、なんか中学生っぽいイメージがあって。

AI モデレーター：中学生っぽいイメージ？それって今の滯ちゃんには早い感じ？

滯：早いっていうか...まだそっちじゃないかな。今はキャンメイクが自分に合ってる気がする。中学生になったら変わるかもしれないけど。

AI モデレーター：中学生になったら変わるかも、か。中学生になったらどんなメイクしたいと思ってる？

滯：もうちょっと大人っぽいメイクかな。でも今はまだ、ふわっとかわいい感じがいい。

パートE：メイクを頑張る理由・これから

AI モデレーター：滯ちゃんって、なんでメイク頑張ってると思う？自分的にはどういう気持ちでやってる？

滯：うーん...なんか、自分がかわいくなれる感じがするから、かな。

AI モデレーター：自分がかわいくなれる感じ。それってどういう時に感じる？

滯：メイクして鏡見た時。あ、いい感じってなる時。

AI モデレーター：いい感じってなった時、どんな気持ち？

滯：なんか...自信が出る感じ。今日友達に会えるって思える。

AI モデレーター：自信が出る。友達に会う前にメイクするって、友達にどう見られたって言うのがあるの？

滯：...うん。かわいって思われたい。あと、ちゃんとしてるって思われたい。

AI モデレーター：ちゃんとしてる、って？どういう意味のちゃんとしてる？

滯：なんか...だらしない、みたいな。身だしなみちゃんとしてる感じ？お母さんが、身だしなみは大事って言ってて。それがなんか頭にある。

AI モデレーター：お母さんの言葉が頭にあるんだね。お母さんのこと、メイクについてどう思ってる？

滯：お母さんもメイクするから。なんか、お母さんみたいにちゃんとした人になりたいっていうのがある。

AI モデレーター：お母さんみたいになりたい。それがメイクにつながってるんだね。これからやってみたいメイクってある？

滯：アイライナーやってみたい。でもまだ難しそうで。YouTube で練習の仕方見てるけど、なかなか。

AI モデレーター：アイライナー、難しそうでもやってみたいんだね。なんでアイライナーやってみたいの？

滯：目がはっきりするじゃん。なんか、大人っぽくなれる気がして。でもやりすぎると怖くなるから、ナチュラルにできるようになりたい。

AI モデレーター：ナチュラルに、がキーワードなんだね。最後に、メイクについて他に話したいこととか、言いたいことあったら何でも教えて。

滯：えっと...メイクって楽しいけど、学校には持って行けないから。家とか休みの日だけだから、その分楽しんでる感じかな。学校でもできたらいいのになって思う時もある。

AI モデレーター：学校でもできたらいいのに、か。もし学校でできたとしたら、どうしたい？

滯：友達と見せ合いつこしたい。あの子はどんなメイクしてるかなって気になるから。